

北
蝦
夷
圖
說

惣
説
部

一

ル 4
3627
1

門凡 3627 卷 1

安政乙卯孟夏新鐫

北蝦夷圖說

全四冊

一名銅柱餘錄

北蝦夷地總說	島名	地勢	產物	交易
南方初島人物	飲食	居家	產業	冠婚喪祭
ヲロツコ夷	スメレンクル夷	附錄		

昭和廿一年十二月六日

北蝦夷圖說序

琴瑟鐘鼓音之美者也。而樂歌之事不作。則不能致其美也。二牲魚腊味之尤者也。而饗食之事不起。則不能致其尤也。人材之於天下亦然矣。雖有非常之人。苟不當有為之時。則不能致其才之尤美也。是世之所以為人材

北蝦夷圖說序

不及古也。蓋天之生人，今猶古，則其賦材性，豈有古今之別？唯其無事，是以無所用焉。可往時當文化之始，國家將有為於蝦夷。吏人有間宮氏倫宗者，奉命單行入北蝦夷，居二年，探其窮北之壤，進至滿州之一府，接清官吏語。國家威信而歸，於是北

陬之地，始得詳焉。夫北蝦夷之地，緯度雖纔在五十度內外，以自古荒漠寥廓，故風氣益與彼卧兒狼德殆相似，是以先是不唯邦人不窮其奧，雖西洋夷之貪遠者，未有詳之者也。然間宮氏奮然獨犯艱險，焦心思，遂得其要領，其功可謂偉矣。比之夫是班牙之閣龍

採米利幹。葡萄芽之墨牙蘭。一周地球。其剛
毅堅忍。濟事於萬里之外。材豈敢讓之哉。
當時聞宮氏所述。有北蝦夷圖說四卷。東韃
紀行三卷。足以知其功績之一斑。嗚呼。昇平
二百年之後。一旦將有為。則一小吏猶有若
人矣。人材果豈有古今之別哉。由是觀之。世

將大有為也。則人材之出。千歲之下。猶千歲
之上。斷可知矣。但使之如琴瑟鐘鼓之更奏迭
和。以致音之美。三牲魚腊之加遵加豆。以致
味之尤。乃其在其人而已矣。頃友人^甲大枝某
未請序於北蝦夷圖說。會余有深感於間。
宮氏因記其言以為序云。

嘉永七年甲寅十月

江戸

益堂鈴木善教識



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '北蝦夷圖説' and other illegible characters.

北蝦夷圖説卷之一

凡例

- 一 凡倫宗演話（えんわ）と云ふところは、わが国に悉く是と識ひといふやうにも其人素より多言かつび且（まこと）貞廉（まこと）下鈍（げどん）たる其蘊意（うんい）と探り盡しつゝあるを、されハ猶遺漏（いりぞ）と云ふところの度少くなく、やうにづき歟
- 一 倫宗の性言（しやうげん）苟もせざる者なれば、其自見分やざるのことに、総て演話と云ふは、故小閑（せうかん）如の（ごと）も又少くなく、
- 一 凡物蝦夷島小ひとくまの、悉く其圖説と省て是と載せ、
- 一 凡地名物名言語の類、夷の称呼と云ふ所は、悉く片假名と以て

是と記し分ち易くしむ

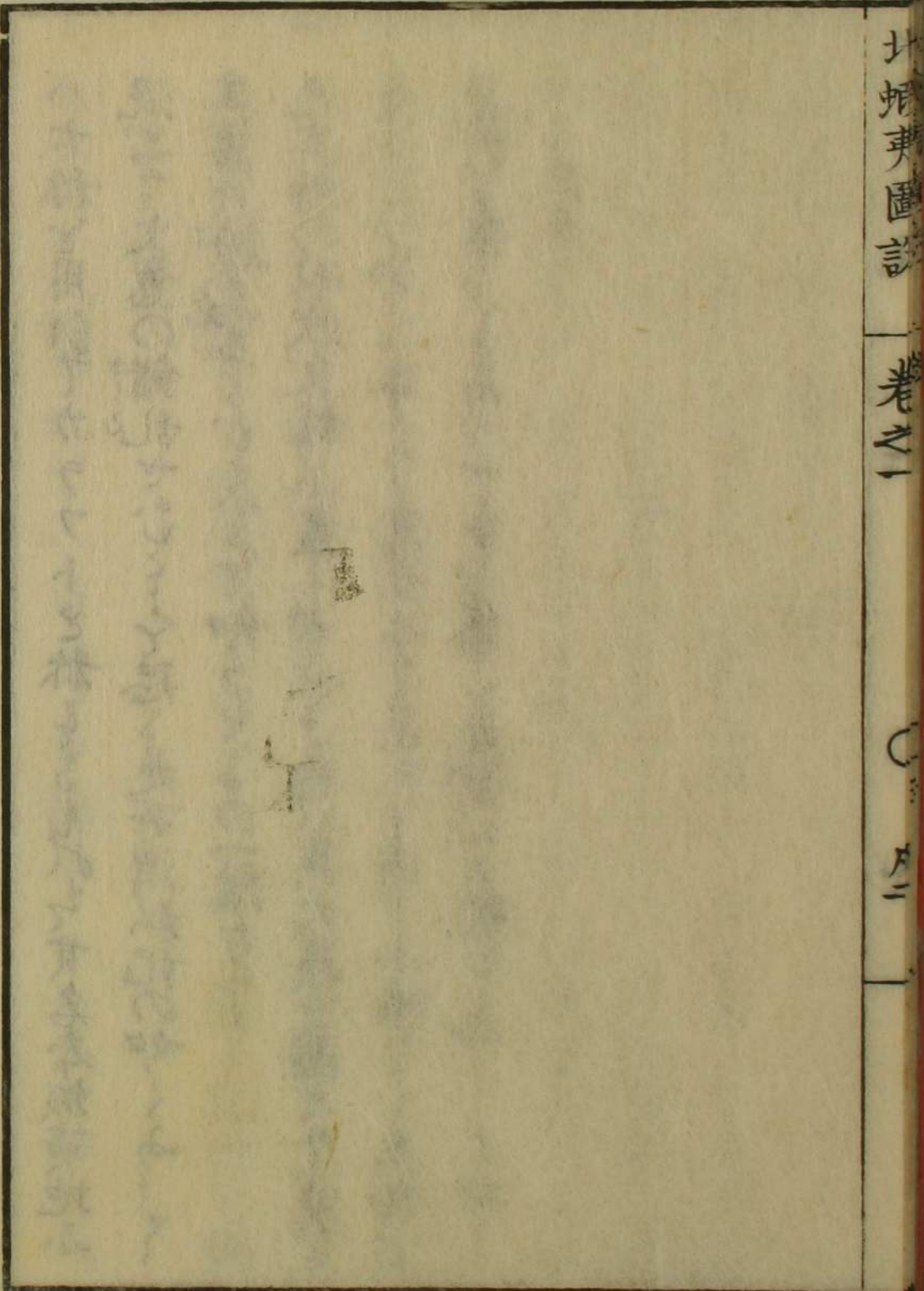
一 南方より奥地に至るまで其序次初小人物と出て次居家産業と記し後冠婚葬祭を終る是と以て夷情事態と概知らし小足れる故に其生平此項事小至て奇事あるふらば此記に載せしむることなり

一 凡此島に属するところのまとはラロツコ・スメレンクルのあやしくども皆此篇中編むものなり其俗異ちうとしくも其地同一に故ちう他満州のあやしくも至るべく別な紀行と編て是と載し

一 凡此篇中北蝦夷地の字と用ゆる事稀なり此島と称し或

ハ古称を用いてカラフトと称するもこれを其名本蝦夷地小混じりて文意の錯乱せむことと恐る是所謂私記の如くありて其事此瞭焉るしことと知らざるの一端なり

一 凡其物の形状文辞小盡しづき物ハ其大略と圖とて是を出ししむるも本より寫生とて其形を得る小論なく其物と見たる事とあるがむきば悉く是葉公の龍たるアと云ふ



北蝦夷圖說卷之一

常陸 間宮倫宗口述
備中 秦 貞廉 編

北蝦夷地 古称カラフト島

一 此島ハ蝦夷島北地ソウヤ^{地名}の北十三里の海と隔て北極地
 と出る^{北緯}凡四十六度より五十一度乃間小在^る其地南
 北小長^{凡二百餘里}東西小短^{凡十五六里より狭き所ハ七八里にせまる}其周廻凡
 五百餘里南に蝦夷島^ト對し東ハ大洋^トにけ西北に東靉滿
 州北地方小臨^る一大島^カウ其人物蝦夷島のごと^ク者^ク
 島と三分^カして其一小居^ル其他^ニ悉^クヲロツコ^スメ^レ

ンクルと称はる異俗の夷是は居ム

島名

一 此島と称してカラフトといふ其来由と知らば林蔵此島
と巡てある所島夷は質問はつて島夷は又其来由と知
るものなく只蝦夷島の称呼はるやと問はると答へ奥地の
夷小玉ててカラフトは称呼あるやと問はると辨知する者
かへてこれバ此島の本名はあらずと明たす

一 奥地の夷自称してシルンアイノといふサンタン夷島と指
してシルンモシリと称はるは是と以て考る時とシルン此島の
本名なるが如し然る小林蔵東韃入る諸夷は接するの間

同船の夷韃夷は對して相語はると聞は韃夷は自称してキ
ムンアイノと称し船夷は自ら呼で我をシルンアイノと云
といふ夷言は山と称してキムと云ウンを集居の意アイ
ノを夷の通称なれど是と山居の夷と譯は是と以て顧てシ
ルンアイノの称と按じ且其唇舌發音の間と熟察はるモ
シリウノアイノは畧語ちとて夷言島と称してモシリ
といふ則島居の夷と稱はるはさるべしサンタン夷の如きは島
夷の言語と解はるはさるべし只其聲音の口を發はるやと云
れみを聞てシルンアイノは居島かと思ひシルンモシリ
と以て稱呼はるは是は島名と云ふべき者にあらず

一 林蔵東韃の假府小至了官夷と向答のほびで言此島小及び
 々々ハ官夷德楞嘎山の四字と書きて是と與あつふ花隆板九邊
山やる者 是蓋一東韃夷字と製きて島は名付る所ありて
 と載り 島名素より然るものよりあつべしとんが我 邦呼でカラフ
 トとちり北極夷地と称するが如く島の本名とちりべし
 一 拂郎擦版海上圖中サカリインと題せる島あり其島大抵カ
 ラフト島の所在に置畫ひたる其地名と書するもの大抵林
 林蔵の圖中小載するところや合せり蓋一此島と称するは
 る一是小依て林蔵島より東韃小入るる間此稱呼あるの
 所と鑿求さくきせり一東韃夷マンゴ河の源と指してサカリイ

ンヲウラ江の称と称し其河源魯西亞の境界中より發志
 て德楞哩名と徑其水悉く此島に當突して海に入るる爰を以
 て魯西亞の属卯年エトロフ島小来り 皆此島と呼でサカリ
 イン乱安とちりたる賊夷と称し是拂郎擦版圖中の名依て起れる所あり
 同國版別に編むところの地理書小此島と題してエレウテ
 ボウヤと名つくエレウテは蠻語と譯しハ物と閉塞とる
 の意かりボウヤを島と譯し是其島マンゴ河の口小在て其
 流と閉塞とる如きを見てかゝる名と下せるは一以上二
 名とも或る河名と島名と轉し用ひ又ち地形の所在を以て
 名づけ已う思ふをよく小題名とるものごとく猶韃夷の製字

下名はくわの如し

一 島夷の詞東韃の書るるに拂郎察の版ふ及ぶとてカ
 ラフトと称するありと見びカラフトの語も蝦夷島の言
 語のありをいへるも竊に量るふ蓋し 本邦の人名つくること
 るをみるに 往時松前家蝦夷島と撫らるるの初め此島の夷
 山且夷と共ふソウヤ子渡来し錦玉烟管の種と持来て懶
 狐狸鹿の皮や交易せしと云其時必韃服或は異製の衣と服
 一 来りし故 近代と云ふ處ども島夷の 所謂支配人番人たるも
 服と蝦夷島と小異なり 呼で唐人フトと称し 云より 數十年來呼習せし
 終小島名と成しとのちむ以上數説を揚るといふも總て

島名とちひさぎものなり 去己六月

命あるに北蝦夷地の字を以て此島小名づけし其地蝦夷
 島と隔るるや僅小十三里許其住夷も亦大抵蝦夷島小異な
 るありし其奥地異俗夷有とてとも其行変化業少異ある
 のとありて同トく是無改の夷壤をんを豈蝦夷の名を免る
 べきを得むやと云ふにバ蝦夷島の北島たるの故小北蝦夷地
 と稱本然の島名とも稱しつゝ今 幾百年來無名の島とす
 ても終小有名の島となれり

地勢部

一 此島の地勢南方凡百五六十里の間

東はタライカ西はリヨ
十イ子至るの間と指し

て南方と云 下是は倣ふ 総て蝦夷島の地味は異なるありたりといふをど
も高山大岳と称する者なく又嶮且艱難の地も稀なり只
小山丘岡の類多くして厭ふべきは堪たらず其間平急曠野あ
りといふは 藪澤湖沼多し地味至て悪し

一 此島至る處草木發生せざれば所る 故に其地勢鬱鬱として
て陰地なりといふも其土を悉く乾燥して水氣はくちく
地上総て草木の落葉幾年とれく落重なりて朽積といふも
水氣あき故にや土化しぬる事あり 故に其地味猶更に潤澤
水氣なくして悉く塵土なり其上と行時ハ趾陷りて膝と後
たると不至る所多し 島夷等時とて山野不宿して火と燃え

て棄置く時ハ其火塵土小燃着し遷延して山林小燒羅し雨
あつとくども其火大抵消却するなり 十里二十里の間
樹木悉く焼敗しることありと云 林蔵良年の夏初て此島と
ア一頃山火ありて日数二十日ほど経て此火キトウニ
といふ處小至て猶炎にたり其間里程凡十里許の間樹木悉
く焼敗し同年冬再巡りて十一月廿六日トニ此頃既ニ積雪
らんといふ道の數度野宿せしことありて此頃既ニ積雪
小して寒威凌きけりけりや大抵茂林の内不入りて終夜火
を燃しけり其火塵土は燃えつき積雪乃中と溜り朝に至
りて是を見しを文餘の外に迂延し故
は朝に火と消滅して發趾しといふ
一 前條の如く塵土なる故に草木根を結ぶといふも堅實
あるありありいざらざる其地素より極北の離島なりは時
大風の為に一山二山の草木悉く倒伏するありといふ

キトウレネリ圖



キトウレ
ノホリ

オカニ



キトウレ

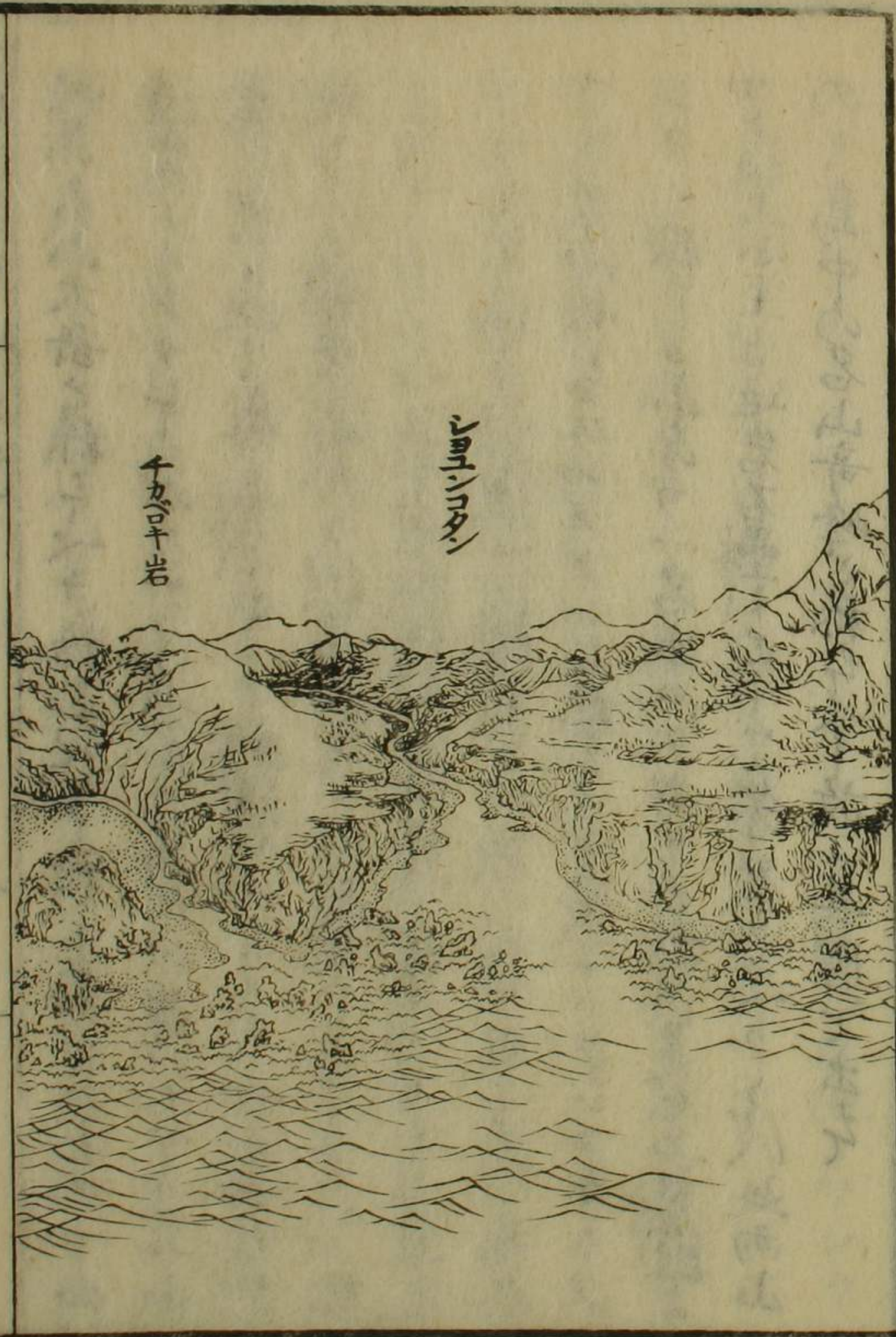
トツシヨカウシリ圖

トツシヨカウシリ



トツシヨカウシリ

千九百岩



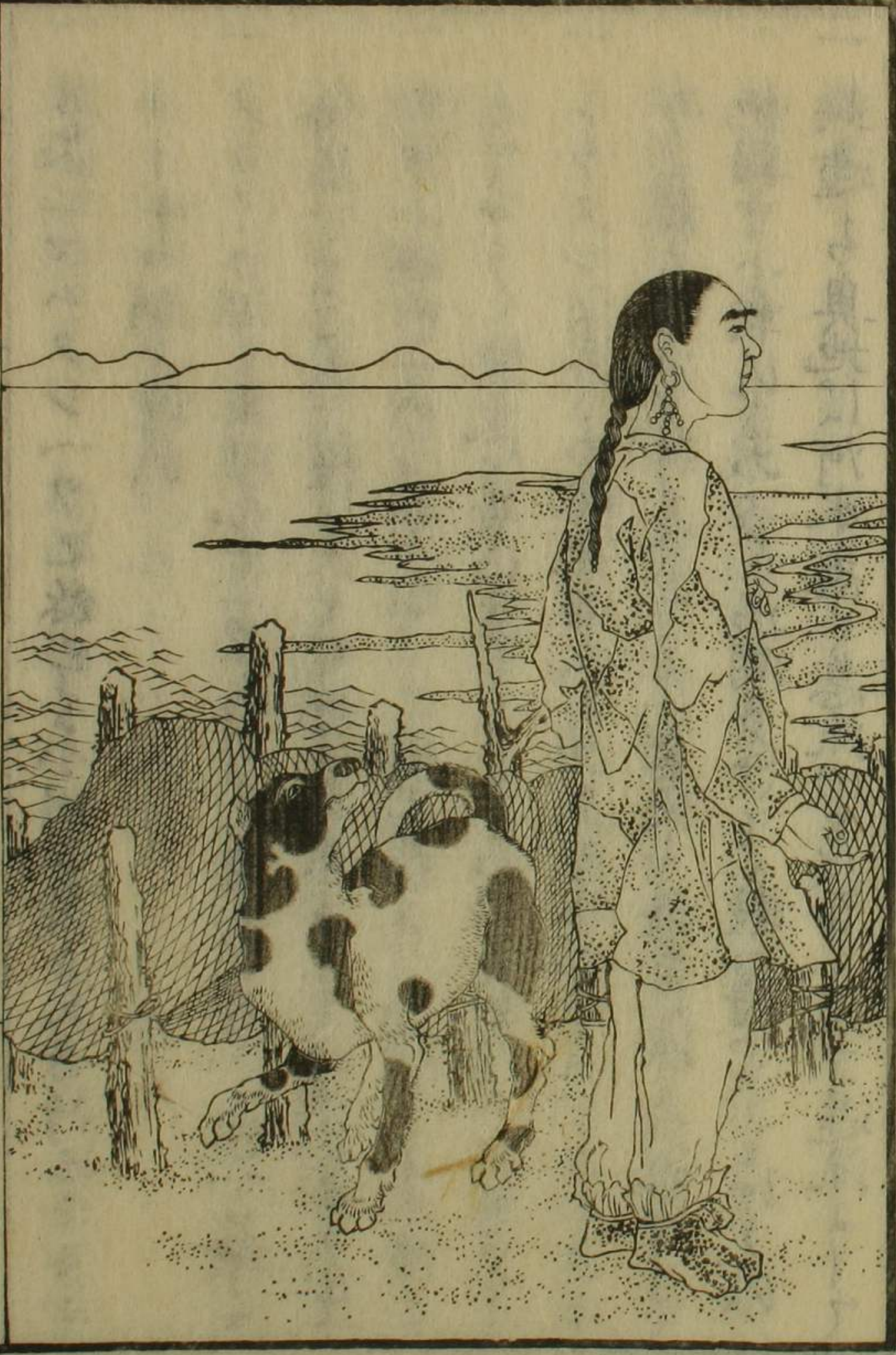
一 此島名山大岳と称すべき物なれども初小云如くなれども西
 海岸よりトウシノボリなる者あり其形状圖の如く一山
 悉く岩と以て成り突くとして^{剣鋒}と列するもの如く四方削
 成りて^{攀登}するべし其高度を林藏量^量を来らざれば記
 せざるべし凡松府の白神嶺に類しべしと云然も
 ども其名殊に高く満州の諸夷といへども皆能く是を知れ
 ば又東海峯シヨエシコタンと称する處よりトウシヨカウツ
 シリと称する山あり一名ホロノボリと称し是亦其麓趾^{ふもと}
 まで嶺上に至る迄岩石^石とて攀登するべし此兩山
 の二島中の名山奇峰と称する故に其圖と出さ

一 シラヌシと云るは凡百六十里許西海峯の奥地はワシラ
 イと称する所あり夫より凡二里半許北の方バニイトンバ
 ウシと称する所ありて奥地の方ハ高山絶てあり只^只陵夷
 乃小山のを往く小散在^地の邊に至てハ又
 小山もなき實に^{豁然}たる曠野なり然れども其地味ハ南方
 より異るありなく海岸の沙地はありざるはハ大抵塵土小
 きく水氣なく燥乾の地多し

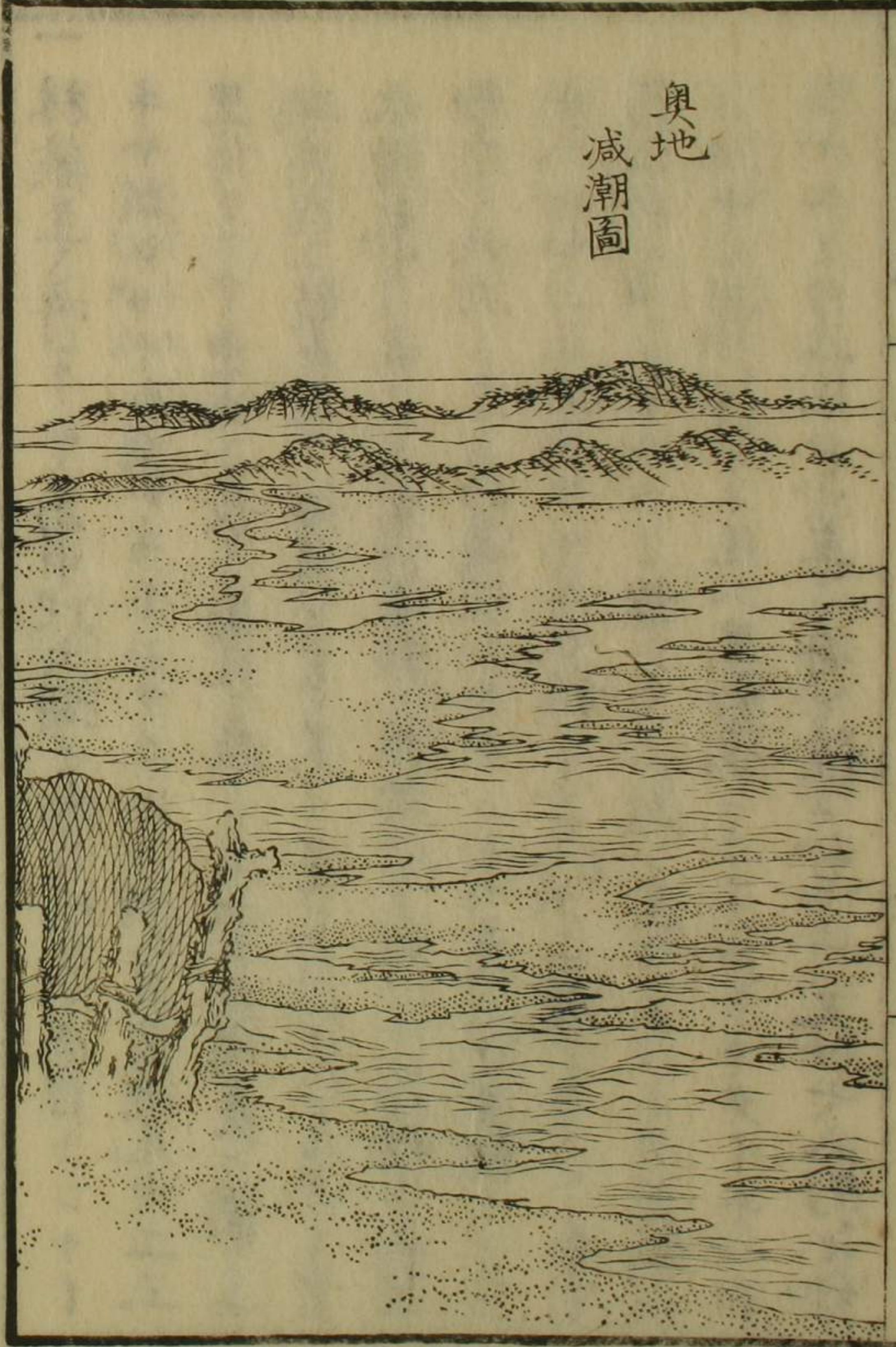
一 此島中河流ある者亦少くはとて大河と称すべき
 もれあり南方百五十里の間小在る所只シー川の島中此
 巨流と称する然れども其河口僅小四五十間あるのみ其

源トモ一と称する北流川是亦島中の一巨流なり林蔵見ざ
 クル夷の言と云るの頭より發して南流數里トウツカと称
 と以て後ニ附以 此の頭より發して南流數里トウツカと稱
 する所より到る分流して一トウツカト川と名する其流終て
 濁水ありて遲流ちり源より河口小至るの間西岬終て四五
 里の平魚ありて岩崖断岸の類あり故に其河潤潜延し西岬
 悉く湿地小きて沼澤の類多しと云此他の河流あり大抵
 歩渡らざる者多し其舟渡らざる者もシラヌシト云
 東トウツカトトンナイキヤ○ナイフツ○ナイフツポ○タ
 ライカ以上五句 皆地名 シーと合して六つと云西をライキカ○
 ベシトリイ○ナヤシ以上三句 皆地名 の三河小限ると云

一林蔵至る所より島中大湖と称するものトナイ
 キヤ湖タライカ湖カウトンナイキヤ湖ハ其周廻凡十二三
 里許ありて東西小長く南北は狭く其四方丘岡是を圍み小
 嶼其内ニ散在して海岬と云るあり遠くびといふとども其
 水鹽氣あり産する處の魚類ハ雜物の多し一て品題と云
 物なく此湖に至るの道はシラヌシト云東三十里餘ありて
 キヤニ○ホラツフニと称する二地 名 二處ありて舟を
 陸上小舟トウと稱する小湖に至るホロトフと稱する
 湖中と過ぎ行くと凡二里小近ありてトウキタイキベシ
 シヤニといふ川口小至る舟と陸より登り凡廿七八町を經



奧地
減潮圖



ハバニマムクシ一ツと称する小川に至る又舟行きてトシ
十イキヤ湖に達ス

- 一 タライカ湖を周廻凡十一里ありて東西は長く南北は狭く
海岸を去るも僅に六七町四方平原ありて丘岡の類は
湖中小嶼西三ありて湖鳥たる一大湖なる水浅く
てて少く鹽氣を帯ひ産するところの魚類比目魚鮒多し
一 シラヌシと云るあり凡百六七拾里ある西海岸はウヤクト
ウと称する所あり是よりて奥地を海岸総て河地ありて
地圖中小載ゆるがごとく沿湖多しと数を得ざるは
一 此邊より奥地は河水悉く急流のせりて總て遅流ありて

濁水なり其外悉く落葉の氣味と存して水味殊に悪し

- 一 此邊より奥地海面総て平ありて激浪なり然しとも其
地東韃の地方を隔るあり其間僅に十里七八里近き所に至
りてハ二三里ある迫所なる中流潮路ありて河水の鳴流
と云ふ如し
- 一 迫處の内何れの所も減潮するあり甚しく其時に至るとハ
海面凡一里餘陸地となり其眺望の景實日本地の見ざる
と云ふありて其色青黄なる水草一面小地上小石の蒼茫と
云く海水を見れば其形奇ありて圖寫するに難し
- 一 此邊汐時ありて本邦と異なり林藏戌辰の夏六月廿一日十

ツコ崎に至りし其晝八時分の満潮減りて後其夜五時
分又満潮いと云

一ラツカ崎よりタムラヲ地名に至る迫せど處のうちは冬月に至

りて悉く氷海と成り島夷徒行とて其上と往返し或は犬と
去り船を挽ひひとつども其氷碎破くりて陷没おちする事あり

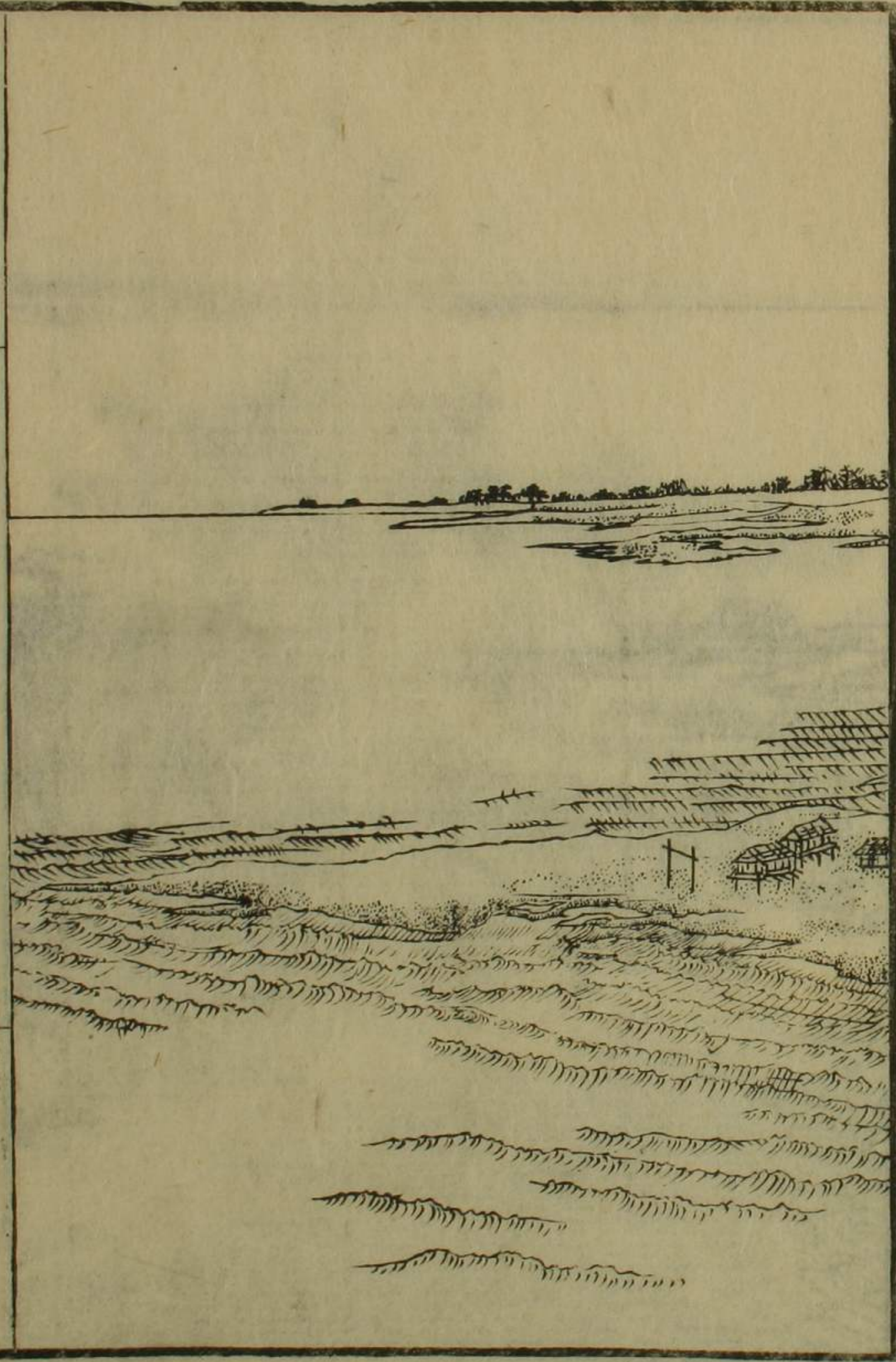
一此邊より奥地は終歳地中雪ありと云其寒地たる事
と志されず

一南方初島の間十月頃より雪海上に降りて積りて潮
水総て泥水の如く波も随て海岸に打ちて凍合し大なる
巖石の如く巖冬の頃に至ると洋中より大氷流り来

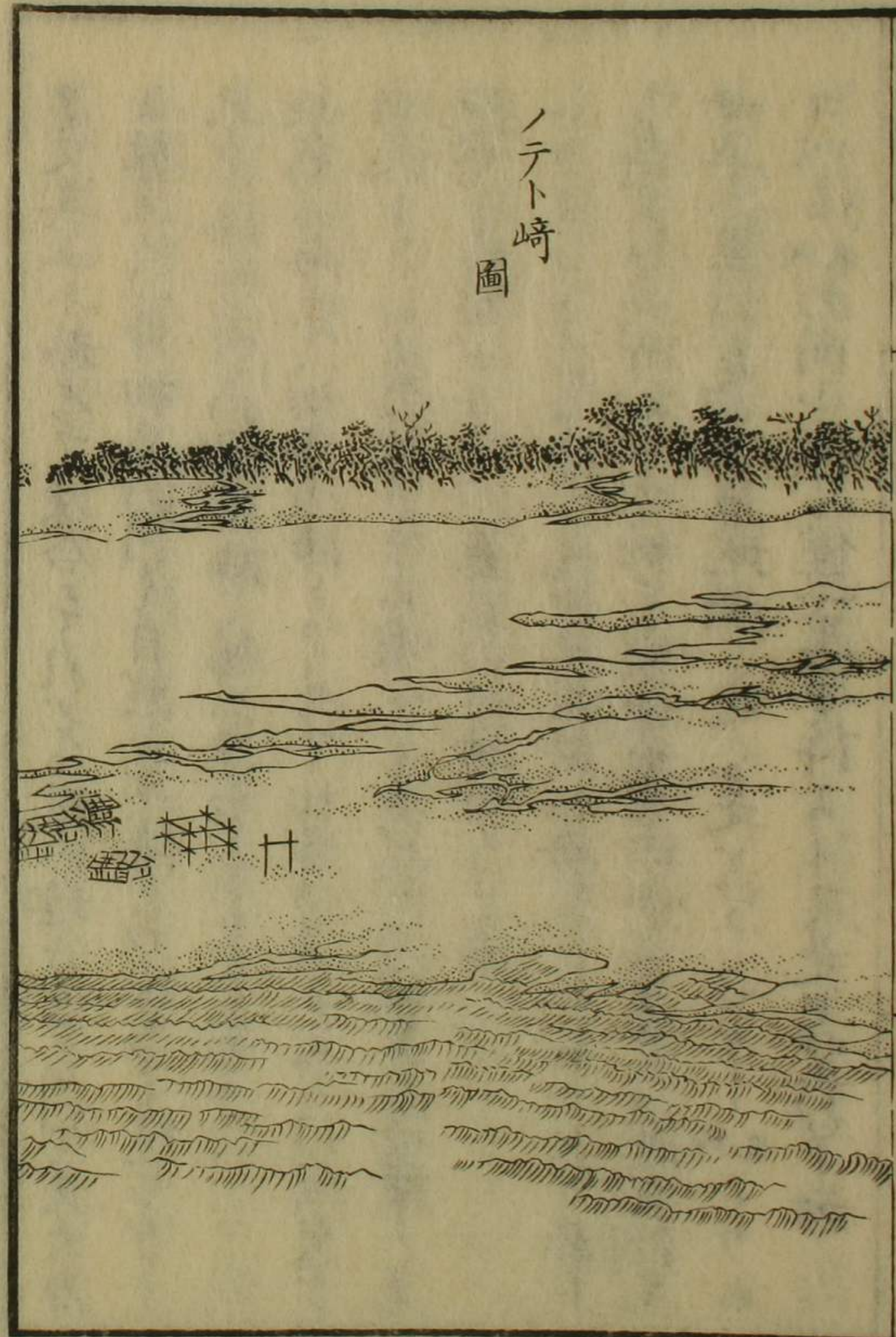
り又其上に粘りて凍合をれども風の趣きよふ所て又大洋
に放流し一体初島の内より自然に氷海と成りち絶てけり
只東海岸所の湾中時稀に凍合する事あり

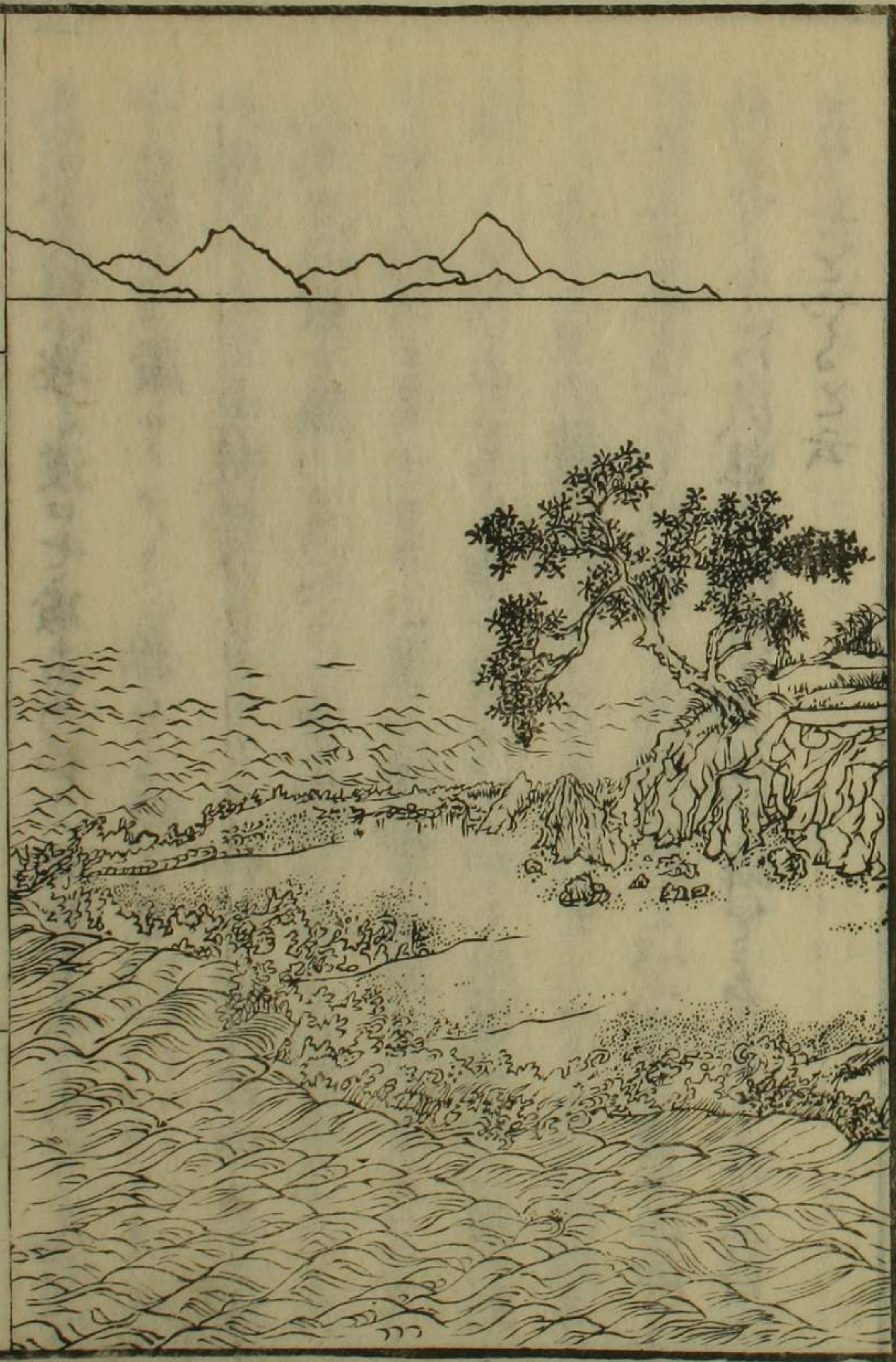
一此島西海岸に初冬の頃より初春の頃に至るの間支子
の風多く仲春に頃より衣より未だ間の風多く吹續くと
りやも終歳中ひびく暴烈の風稀なりと云

一シラヌシと云る者凡七十里許西海岸よりウシヨロヤ称し
る所あり此所ありて初に東韃地方の山を遠望し其直径凡
廿五里許是より奥地漸く近く是を望むワゲ地名よりワホ
コ地名の間に至りて僅一里半許ありて是を望むと云

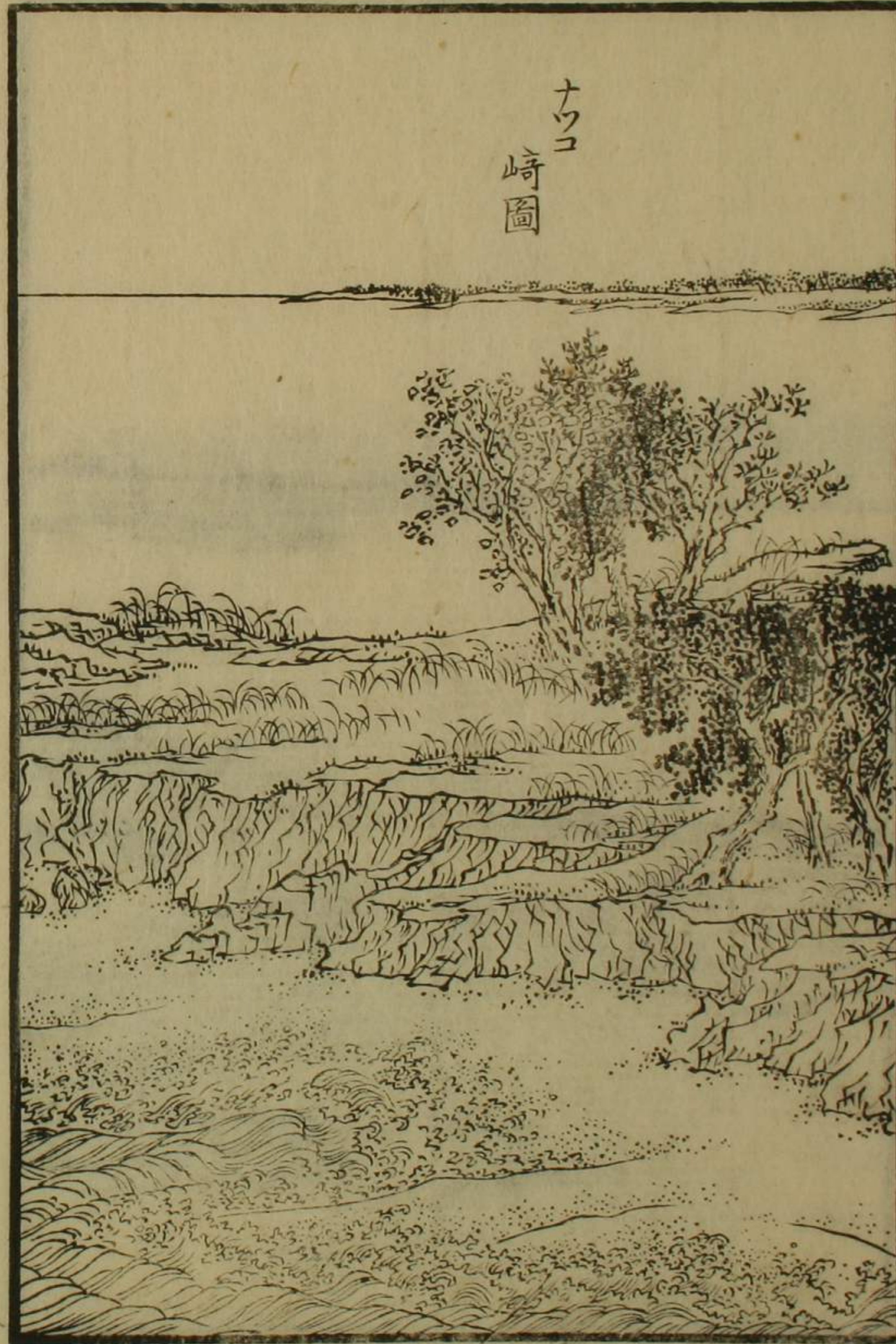


ノテト崎
圖





ナツコ
崎圖



一 島夷東韃小越く渡口七處ありシヲ又シと去るあり凡百七
 十里許ある處はノテトと称する崎ありスメレンクル夷稱
 此處より去り東韃地方カムカタと稱する所は渡海は其間
 凡九里の餘と隔つところも海上穩ヤサ小志て大抵難変あると
 云ふ此所よりナツコ小至る海路も潮時と熟察して舟と
 出るといふハあるあり難し前より如く此邊減潮の時ノ到
 して海上二里の餘陸地と云ふ其陸地からざる所は淺瀬多
 くて舟とやるといふ故に満潮の時と云ふも海岸小添て
 行くとあるらび能く潮時と考カク認て岬と去るあり半里許小
 ころ舟とやると云

一 ノテトの次ある者とナツコといふスメレンクル夷 其間相
 去るあり凡五里許此處よりして東韃カムカタ小至るの海
 路僅は四里許と隔つ其間大抵穩かるといふがも出崎あり
 を浪うけあはく殊に減潮の候上文のゴありて其時と
 得ざれば舟と出はるるべし魚類も無數ありて糧と
 得るふ之ハ事不便の地なり島夷大抵ノテトを以
 て渡海の時となし然きとも風順ありくと又冬月に至て海
 上怒濤多き時ハ其海路の近きと便として此崎より渡海は
 やし

一 ナツコの次なる者とワケと稱し其相去るあり凡六里許

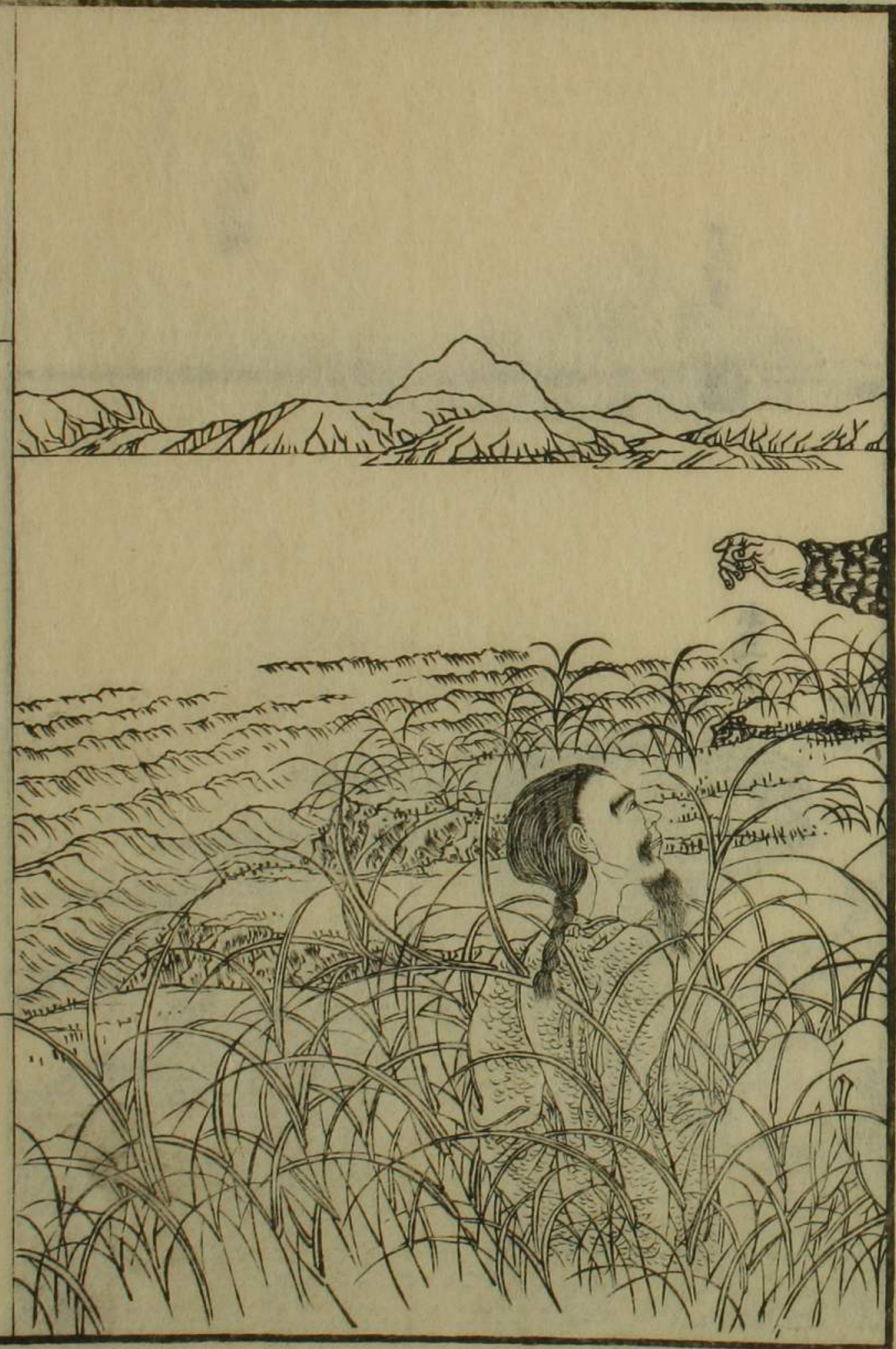
通船の事ハノテトトナツコト至るが如く能潮時と考一
ざれば至るべく能らば此處よりして東韃ヲツカバーハ
と称する處小渡る其海路稍小一里餘少して海上穩なりと
以て追處あはれ中流潮路ありて急河のぶとく風候は依
て逆浪舟と没らる事ありと云

一ワケ一の次なるをボコベ一と称し此處よりして東韃ハシ
フニヤウの所小渡海は其海路ハ僅に一里半許と隔て中流
潮路もあはれワケ一の如し

一ボコベ一の次なる者とビロワカセイと称しボコベ一と云
るより凡四里許此所よりして東韃の地方は傍ひたる小岐

小添ひてワルケ一と称する所は渡るあはれ有と云ふも海路
凡十里許と隔て且潮時の候又波濤の起激あはれ船路穩らば
一ワカセイの次なる處をイシラチ一といふ其間相去るあは
凡十五里許是よりして東韃地方ブイロ小渡海は海路凡
四里餘中流の潮路殊に急激なるは此所よりしては漸く北
洋小向ひ此島韃地の間里と追々相むらう故小波濤も亦
激起するあはれ多く渡海艱難なりといふ

一イシラチ一の次なる所をタムラチ一と云イシラチ一と云
るより凡五里許なるべし
此所林蔵をらざる所を
此處よりして
東韃地方ラカタといふ所は渡る海路凡八里餘ありて北海



ワケ
眺望圖

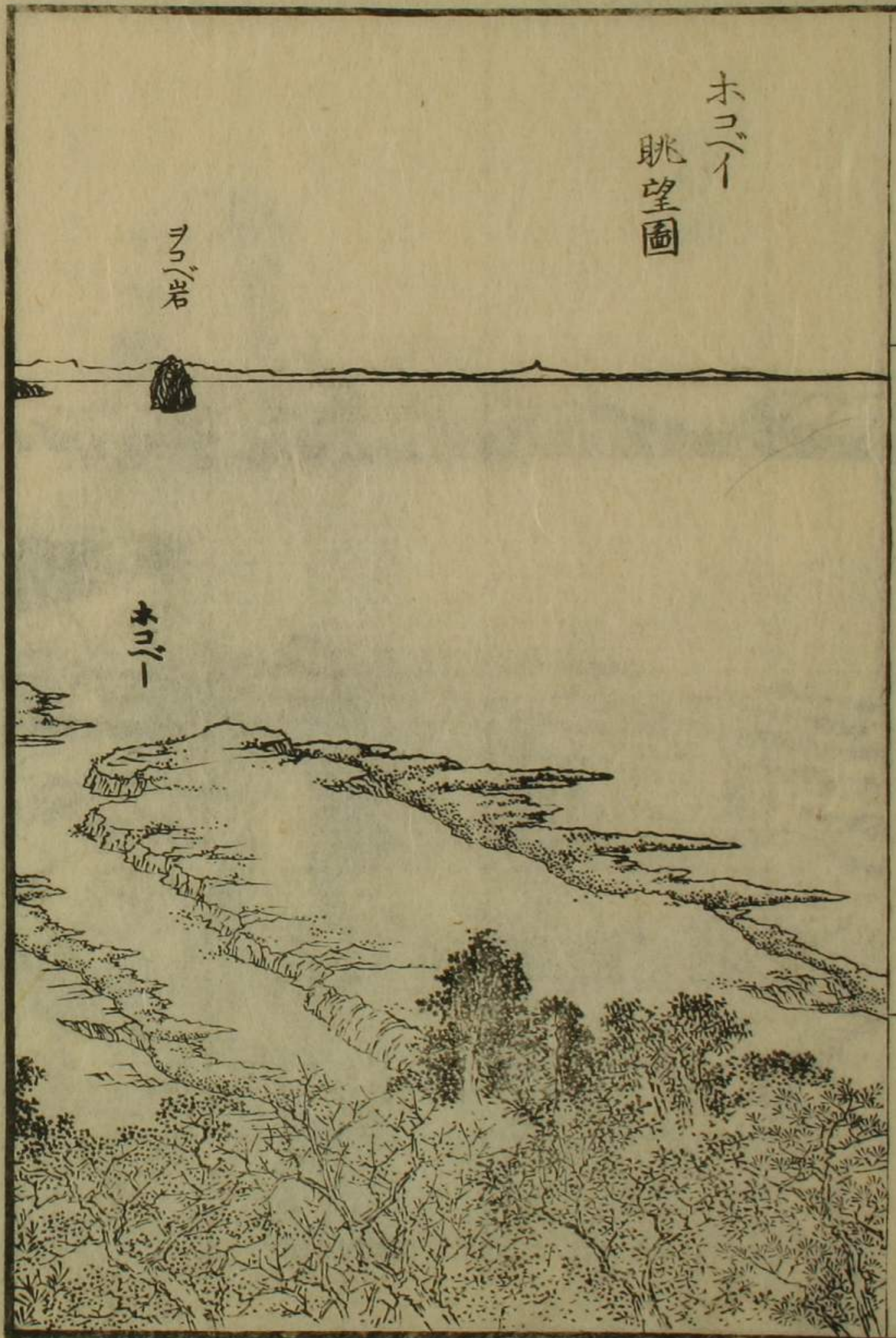


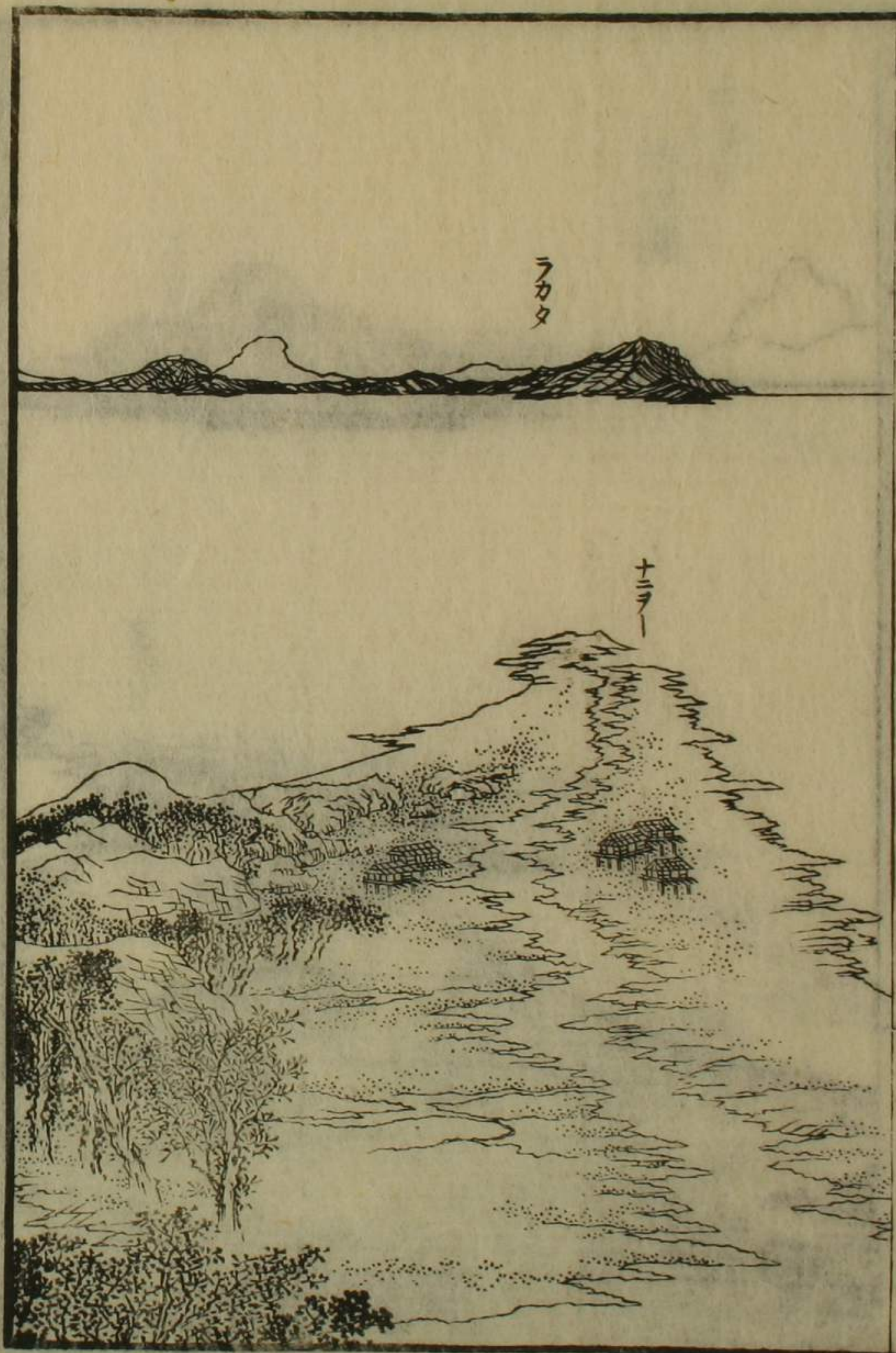
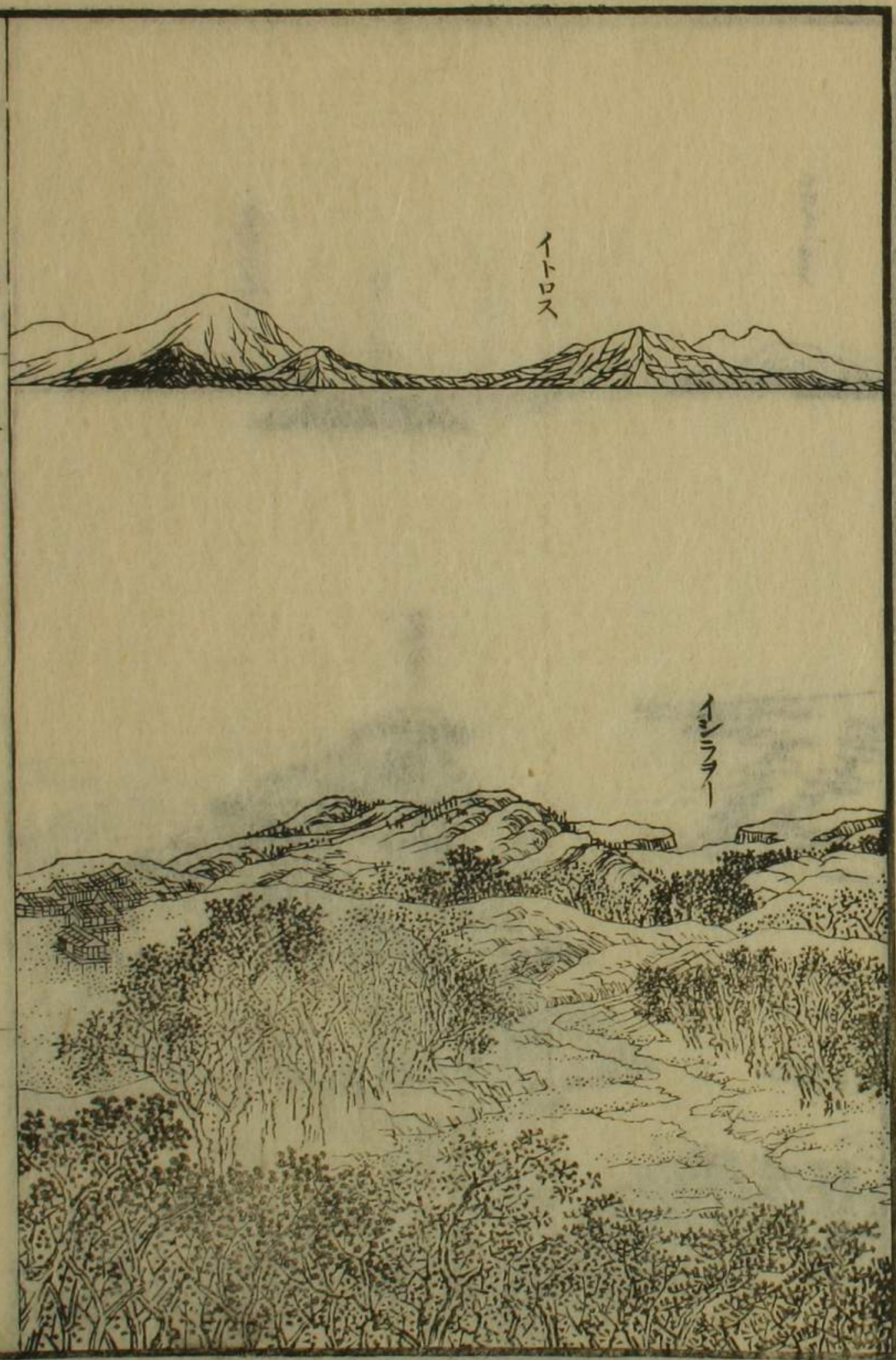


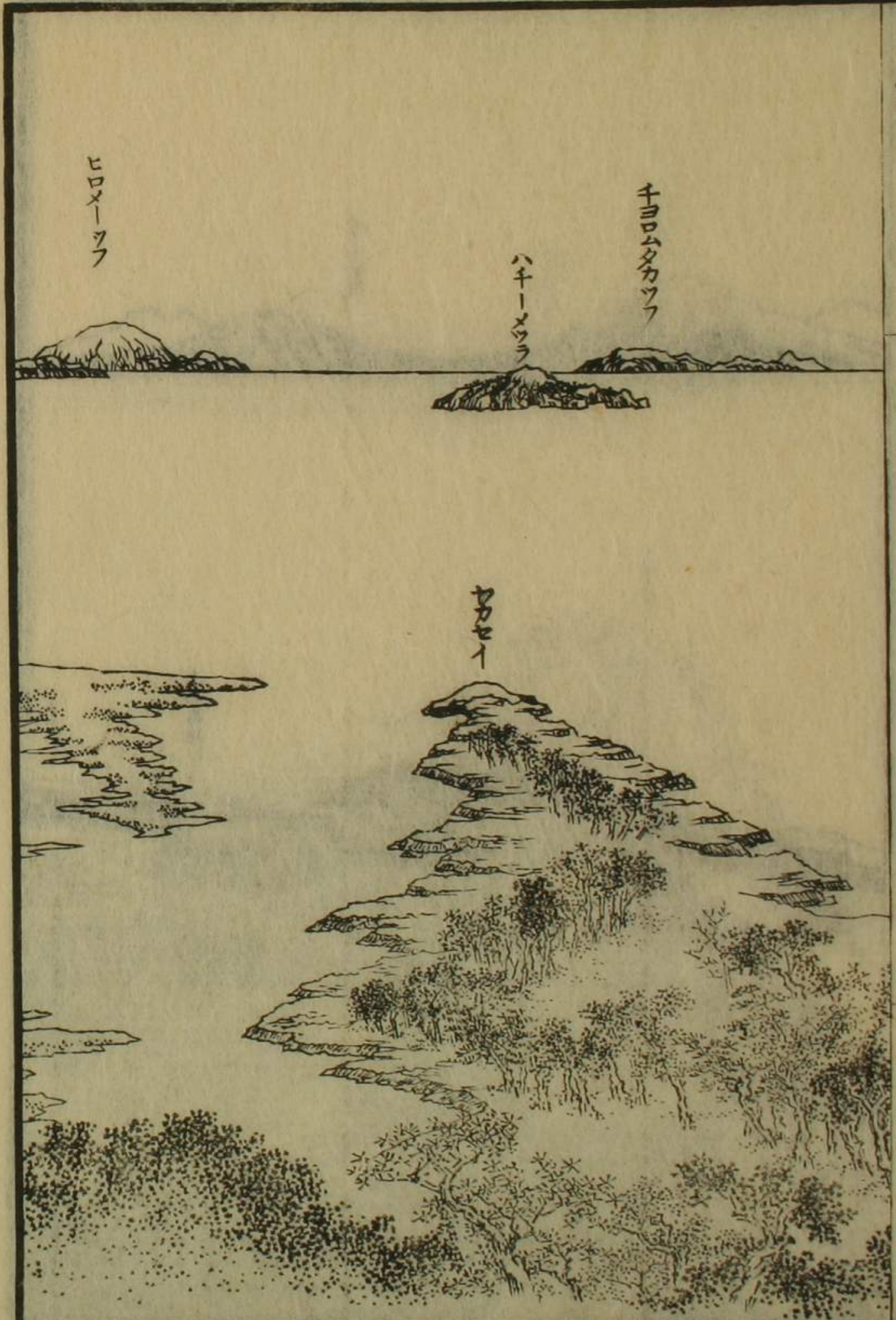
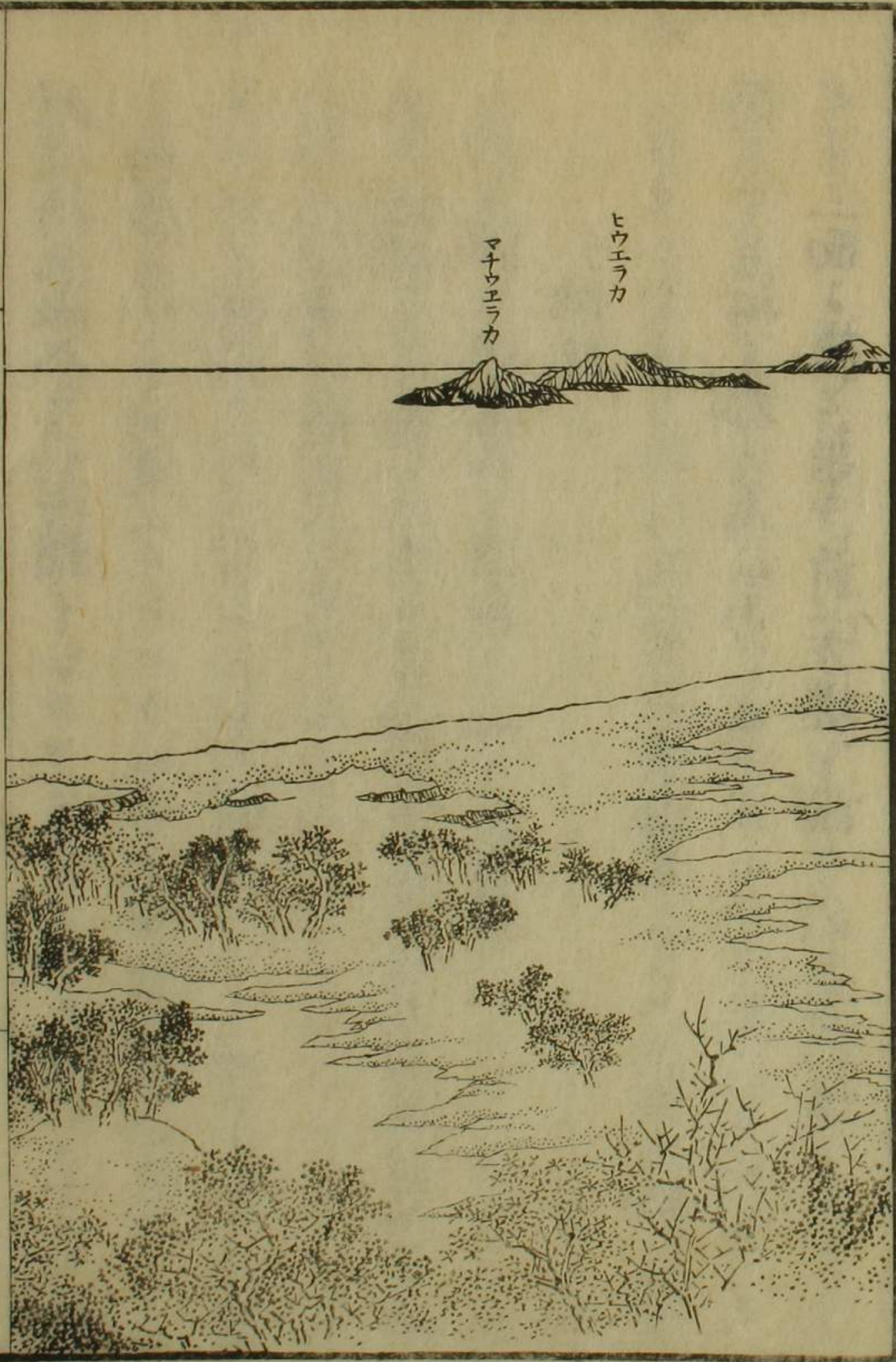
ホコバイ
眺望圖

フシ岩

オコニ







此波濤又激入とれど猶イシラヲトクブイロ小至るる如く難事多りと云是スメリンクル夷の演話たる處あり
 一凡地勢と概論たるむむら前の數條よりてはきぬ他海底の淺深洄灣の難易詳載せしむるありと云ふも其事此錯雜たる為小此巻只槩論と出きて後日沿海圖説するものと編て其委曲と陳載とせむと云爾

附記

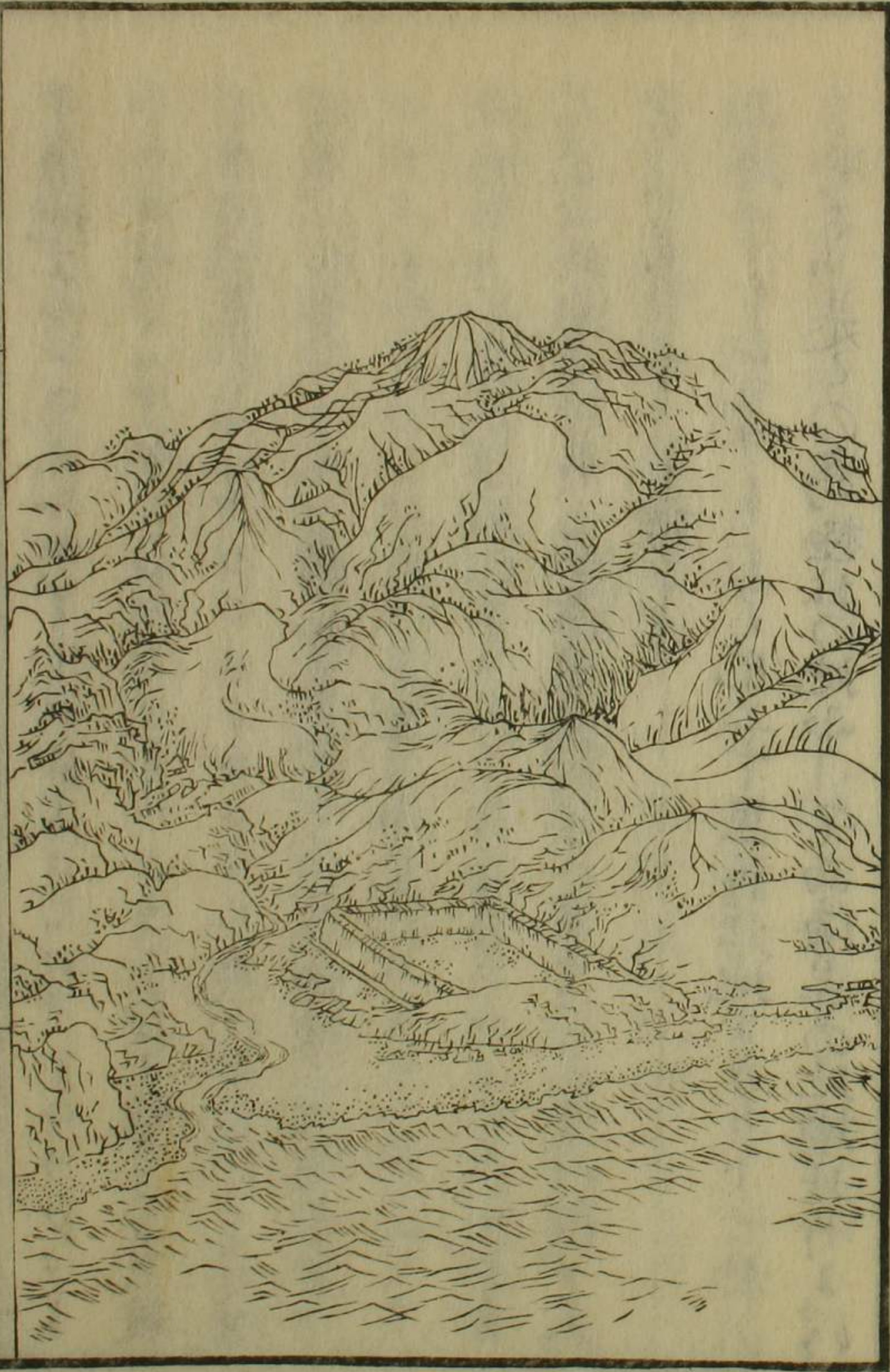
一シラヌシを去るちや凡一里許東海岸小コバウと称する所あり其所塔の舊址あり夷言チヤシヤと称し其狀圖のどと三面堤と築き前方堤と設るる三方の堤下悉く墮

と穿つ何れの時又何者の造る所少や年月塔主といふと云べし其製島夷の化る所ふありと云ふ似たり

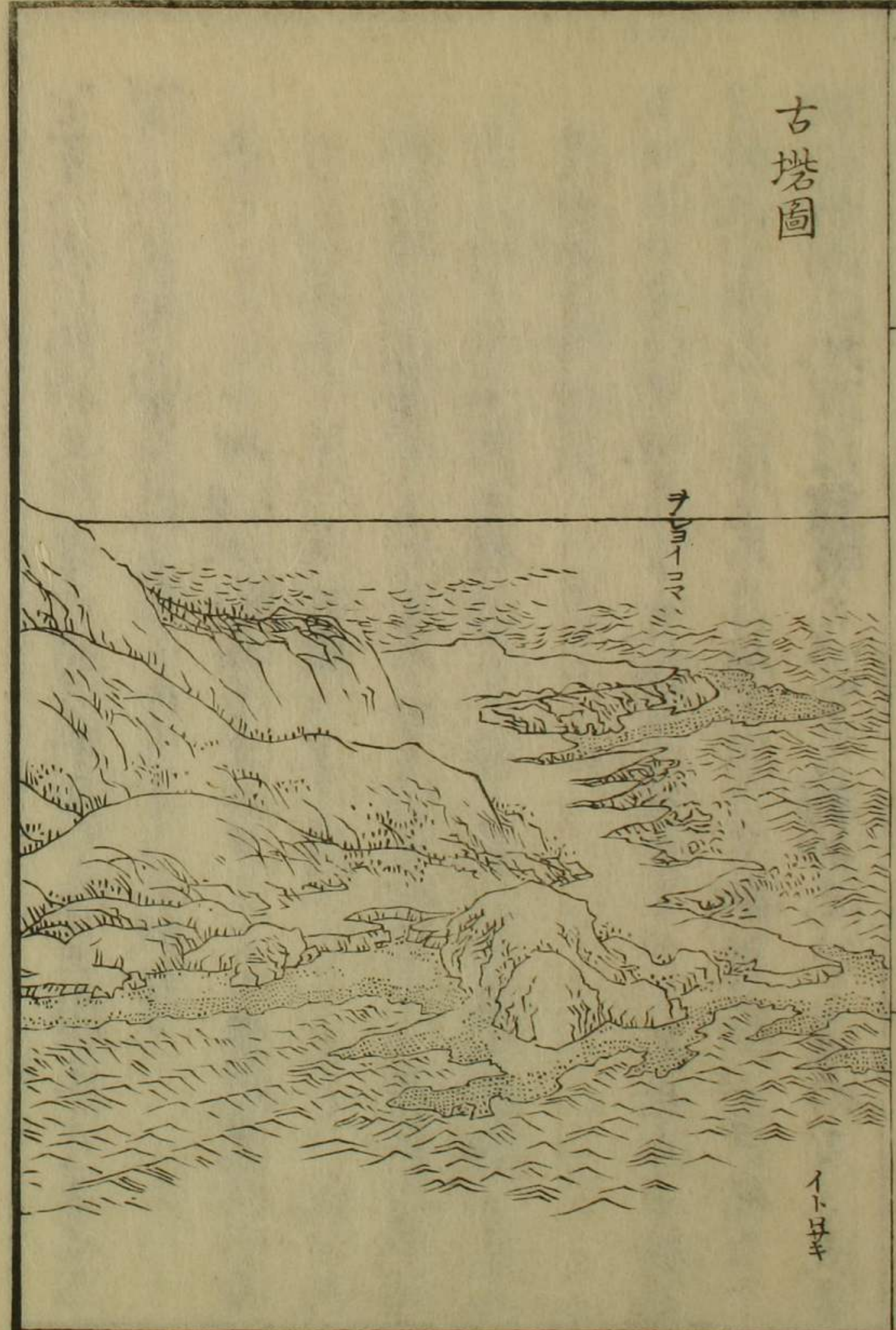
東にシレトコ岬 奥地は 西に十二ヲトウ 奥地東北の海

岸凡百四五十里の間林藏が至り得ざりて一帯なり故に其地理夷態詳盡たることありと云ふも衆夷の演話たる所大抵其概と思ひしむるは是れを故に其事を集めて此所を附記し

一シレトコより奥地凡二十里許ありてクキチと称する所あり此間の海岸は総て岩岸壁を以て船とらひべき所なき故に此間の地理は諸夷といふも辨知するものなり夫よ



古塔圖



ヲ
イ
コ
マ

イ
ト
キ

了奥地よりルンメルコアリーのヌイロヒロチーのラタチー
○一カキヨムチーのシヤエのヒレントーなど称する所數
十里の間悉くヲロツコ○スメンクル夷の部落ありて其
居夷此許多なる所と察知する所あり其地理は大抵南方ト
ンナイチヤトシレトコに至る海岸のほとく入湾ありて
沙地あり此邊点沼湖の多き所と西海岸ノテトの奥地の如
しと云此邊の居夷も亦往昔滿州に入貢せし近代後て入
貢しる所ありと語あり

一 西海岸イシラチーより凡二十里許北地よりカウトと称し
る所あり是くの島極北の地ありて西海岸の地境此所は

きぬ其東韃地と相隔るの間大抵ノテトより南方イトイ
れ間ありて韃地と望むべしなり此邊從てマンコー河口と
うくる處ありハ潮水淡薄ありて其増減は北海より進退し
るありと云ふなりは鱒魚雜魚の類も多く群集し地夷と養
ふ不足なり故に此邊住夷多く凡三十四五落ありて皆スメ
レンクルのチロツコ夷の居域あり其内タムラチー又タム
ラチーのカウトの三處に夷家殊に多く大抵每落數十屋あ
り了滿州の命する所ハラタ○カ○シンタなど稱する酋長
のあり居りて時々滿州に入貢し冬月海面凍合の候に至
りハ山旦夷も來居りて交易とありといひりと云

一カウトより東海岸凡二十里許ありてヒレントーに至る其
 間一大岬ありて地形大抵タライカトウクキチーに至る海
 岸のおおく岩崖石磯多く且東大洋よりくる所たれど怒濤
 いつも高激よりて夷船の往返絶てたり得ざる所なり只仲
 春より初夏の間北海より砕氷の流れ出ると待て地夷舟と
 出り氷上出遊の水豹を獵し得るおや多く只北時のみ海上
 時平坦なることありと云

一此島の住夷は大抵海岸のこゝに居たりて山居の者なり只
 奥地よりてトモと称する川あり島中一二巨流なり其西
 岸土著の夷落凡廿四五所ありて其族は悉くヲロツコニス

メレンクル夷よりて産業も亦異なるおやかく山獵をて得
 るやその諸獣皮は悉く山且夷小交易トモ川に漁を
 て鱒鮭雜魚を得て食糧となし此トモ川ハ源シー川源の
 ほろつらつ發して東北に流るるおや數十里東北海岸ヌイ
 や稱する所の湖中に入りて東海に流る其水遅流ありて急逆
 の所少々しば通船敗没の愁なり且河邊山獵も多く河中の
 産魚も亦住夷と養ふに足り故に東西海岸の住夷結婚通
 税する者少きなり其時其處に往返するおやあり東に夕
 ライカ シー邊より川を上りて舟行し積雪凍合の節お及
 ても船を装し大に曳せ河溪氷上を渡りて其所に至るに西

はイトイ ムカワチヨンと云ふ所より往返して僅小路痕
と存せらば通行難支なりと云

以上四條林藏夷話ふきく所なれど齟齬の事も亦多し成
下と云ふも唯後考の便れ為る爰に云ふ

産物部

一 草の類異種の物と見ゆ只雜草の多し一て花草の類更ふ
愛翫ゆべきものなり

一 萱の類絶て産する物あり

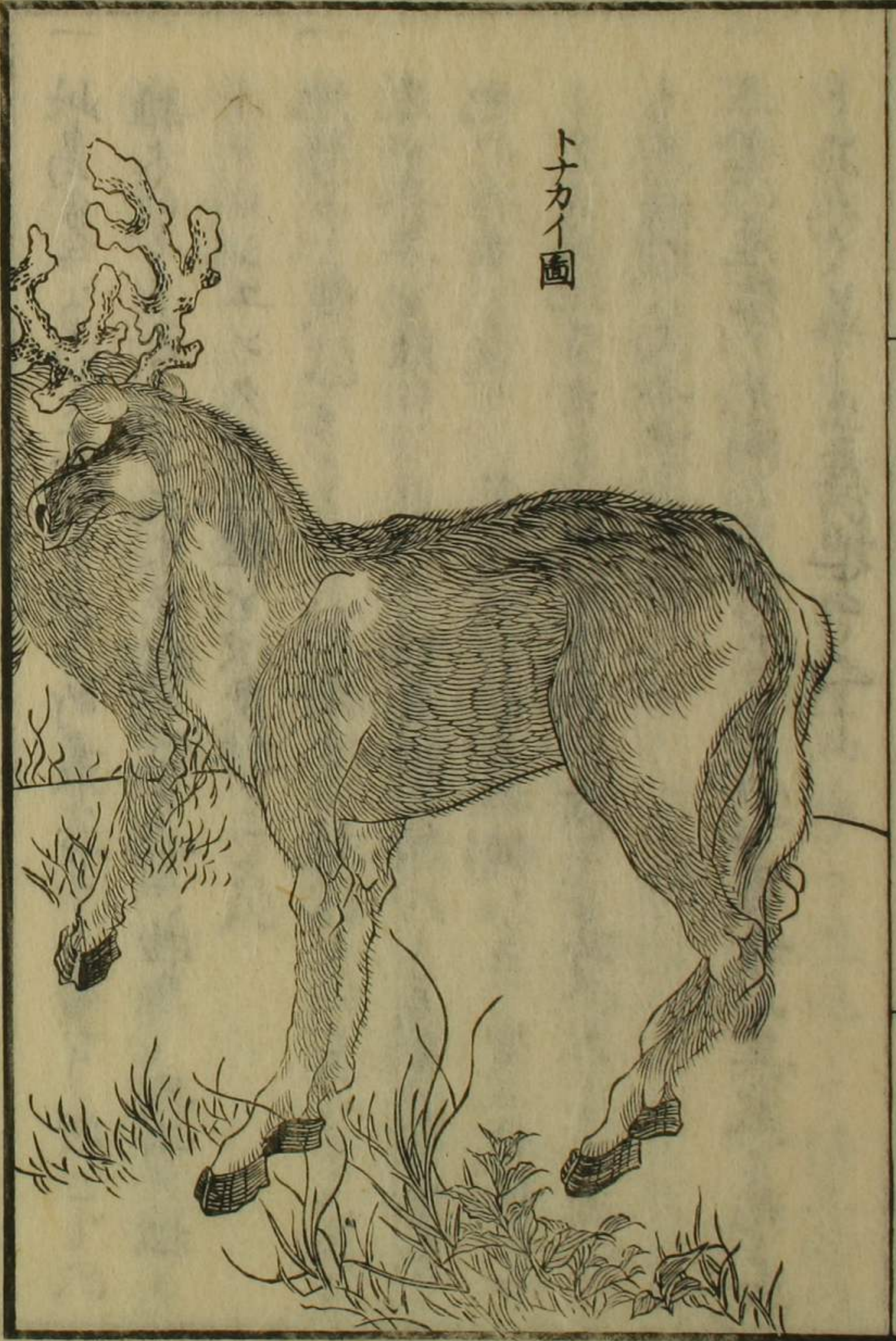
一 竹ハ小竹と云ふも産する所なく只シラヌシの邊箬と生
るるのみ

一 此島多きもの木はありて所叢生せざる處なり然ども只
雜木の多し一て大木良材と称すべき物あり只エソ松。
トバ。シユンクの三種を以良材と云ふ

一 地勢中を載ゆるごとく山火樹木と焼ゆるものも其後
凡四五年を経ばトバ。蝦夷松の類なり其跡一發せざる
他の雜木と産せし其繁茂の状直幹競ひ立て實ふ竹林の如
しと云此他草木ともハ蝦夷島の産する所のごとしと云
も其種類ハ大少ありと云

一 五金の産然て見聞する所なくと云ふも希ふ其氣と見ると
とあれど蓋し出産の地あるべし

トカイ圖



リキンカモイ 圖



一此島は硫黄を産する山あり故に林藏經る所総て焼山温泉

ありことあり

一石品多く異なる者を見ればアテケイといふイドイ共地よ玉

るの海岸多く石膏を産す

一鳥は類は蝦夷島は異なる者を見れば奥地異信夷の部落小入

ては夏月鷹多くて子と産み又其羽墜失てて飛ぶ

はるはざれものあり沼湖の内は游ひ夷等犬とて是を咬

獲せしめ又棹と以て是を打或は石を投げて是を得ると云

一獣は蝦夷島に所の物二種あり其一をトナカイと称し

其全形鹿の如くありあり圖の如く其面目は馬小似たり其

角枝多く突きたるものととも柔軟にして物と傷らば毛皮と蒙る其尾を牛の毛とくみりて細く此島南方の地を山小居たり夷等は是を獵し皮肉と取る奥地ヲロツコ夷に至ては是を養うて業とする其獸をよると懦弱にして能く人小馴れり

夜譚隨録云似麋而大者曰堪達爾汗其即麋也前昂後低多力毛粗而長為裘暖角扁而厚為決良人以其皮可裘而角可決也驕馬寧逐而獵之獲利厚

其一をリキニカモイと称し其形牝鹿のごとくみりて牙はち大さ犬の如く黒色なり夷等は是を獵し皮と取て肉と喰ふ

一 貂南方の産する所ハ其色黄ふして下品なり奥地よむるも隨て毛色黒し是と上々の滿州夷是と悦ぶ

池北偶談曰本朝極貴玄狐次貂次捨狸獾玄狐惟王公以上始得服

一 東をタライカ西をノラトの邊より奥地を海獸殊小多し春分鯨魚の候タライカの海上獸は波上小出沒するあり鳥鷗の羣集するあり

一 海魚の類総て蝦夷島の産する物のごとく只西海岸よりアルコイのハ千ユツキエツフと称する小魚あり其状皆鱸魚のごとくみりて小なる者大さ七八寸なる者とアルコイと称

一 一尺三四寸なるものより千ユツ千エツプと名づく東都の俚言せいどと稱する者のごとく暮春の頃海岬に群集する
たゞ殊小夥し

一 山澗の石ある處ゆら何れかの所は鮮多し其形狀の怪しきと
以て夷等恐怖して是を喰せざらん

一 シラヌシトウクレエニコタンよまするの間暮春より仲夏の
間海上鯨魚多し鮭魚終て後其所在と云ふべし

一 タライカの湖中鮒多く産ひ其大さ尺餘のもの多し其形狀
日本地の物と小異なりと云ふ此處の海中海扇多し

一 トウフツの湾ウレホトの湾多く牡蠣と産ひ

一 奥地のノテトよりウケーの邊小比目魚多し其大さ僅二三
寸と限とい種類は異るもれ幾品あるやとを辨知しつゝ
地夷網を以て是を獲るふ只是のこを得て他魚あることふし
一 千ヤカバとい稱する所より奥地異種の鮭魚と産ひ其肉色
殊ふして赤し常の鮭と異なり
一 蟲の類異形の者を見れば大抵蝦夷島にある處の如く蚊虻の
類甚多きと蝦夷島は越たりと云

北蝦夷圖說卷之一終

（Faint, illegible text within a rectangular border, likely bleed-through or ghosting from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is mostly obscured by light and fading.)

